

# 言語活動の充実を図り、多面的・多角的な考えを引き出せる授業を目指して

－自分と他者とのつながりが残る道徳ノートの活用を通して－

石巻市立石巻中学校 浅野 伸一郎

## 1 目指す授業像

「自分の考えを持ち、議論できる授業」

「他者との交流を通して視野を広げ、自己の生き方を深められる授業」

## 2 目指す授業像に迫るために

これまでの自分の実践を振り返り、自分自身の授業が「考え、議論する道徳」へとなるよう、上に掲げた研修テーマを設定し、実践に取り組んだ。

本研修では、「言語活動の充実」を「自分の考えを持ち、議論できる授業」と考えた。生徒は、他者との議論を通して、多様な考え方に気づき、考えを深めることができる。その実現のために大切になるのが「自分の考えを持つこと」である。自分の考えを持てなければ、他者と意見を交流したり、議論したりできないからである。そこで、本研修では、生徒の実態を踏まえ、「自分の考えを持つこと（書くこと）」に重点を置いて授業づくりを進めた。

また、「多面的・多角的な考えを引き出せる授業」を「他者との交流を通して視野を広げ、自己の生き方を深められる授業」と考えた。生徒は他者との交流を通して、互いの考えの異同を整理し、自分の考えになかったものを受け入れて自分の考えに生かしたり、相手の立場や考えを考慮し、尊重したりすることで、自分や集団の考えを発展させ、新しい見方や考え方、生き方を生み出すことができる。そこで、多面的・多角的な考えを引き出すために「他者と交流すること」に重点を置いて授業づくりを進めた。具体的には、以下の手立てを講じ、研修テーマに迫りたいと考えた。

1つ目は、学習指導内容の工夫である。教科書外の教材を用いた授業づくりや指示・発問、板書を工夫、道徳ノートを活用することで、生徒が自分の考えを持ちやすくなり、言語活動の充実につながると考えた。

2つ目は、他者との交流場面の設定と交流方法の工夫である。生徒が道徳的価値について多面的・多角的に考えるためには、議論を通して多様な価値観に触れることが大切になる。そこで、ペアトークやグループトーク等の他者との交流場면을適切に設定することはもちろんのこと、他者と交流しやすい意図的座席配置の工夫を行うことにした。

3つ目は、道徳ノートの活用である。道徳ノートには、生徒が自分の考えや思いを自由に記入することができ、学んだ内容を蓄積することができるとい

う良さがあり、本校では市販のノートを「道徳ノート」として活用している。道徳ノートは、自分の考えを客観的に振り返ったり、発展させて考えたりする場面でも役に立ち、言語活動の充実につながると考えられる。さらに道徳ノートを通して、互いの考えを共有したり、コメントを書き合ったりすることで、他者との交流に役立つと考えられる。級友や保護者の考えがよく見え、自分の考えと比べやすくなることで、より多面的・多角的に考えを広げられる効果を期待している。

## 3 1期の取組

教材名 「償い」（出典：絵本「償い」作詩：さだまさし）

主題名 D－（22） よりよく生きる喜び

## 4 研修テーマに迫るための手立て

- (1) 学習指導内容の工夫
- (2) 他者との交流場面の設定と交流方法の工夫
- (3) 道徳ノートの活用

## 5 具体的な取組

### (1) 学習指導内容の工夫

教科書外の教材を用いて授業づくりを行い、1期では、さだまさし作曲の「償い」を基に授業づくりを行った。交通事故で命を奪ってしまった主人公と愛する人の命を奪われた奥さんの実話を基にした内容である。命が関係していること、実話を基にしていることなど、留意する点が多いが、実体験を基にした資料であり、生徒が内容についてイメージしやすく、考えやすい資料であると考えた。

また生徒の実態から、本研修では、言語活動を充実させるための土台作りとして「自分の考えを持つこと（書くこと）」を大切にしたいと考えている。そのために指導過程においては、大型テレビと黒板を使用し、内容を整理し視覚化することで指示の明確化を図った。また、発問を精選し、道徳ノートには、生徒にじっくりと考えて発言させたい発問についてのみ記入させた。この2つの取組により、生徒の考える時間を多く設定したいと考えた。

### (2) 他者との交流場面の設定と交流方法の工夫

1時間の授業の中でペアトーク（2人）やグループトーク（4人）の場면을適切に位置づけることで、多様な考えに触れ、多面的・多角的な考えにつながると考えた。また、ペア（グループ）トークに

において、自分の考えを心置きなく話し合うには、ある程度の人間関係が成立していないと難しいと考える。他者との交流が苦手な生徒が多いという学級の現状を考慮し、ある程度の人間関係が成立した者同士で編成した座席配置の工夫を行い、互いの考えを思う存分語り合えるような土台作りを進めた。

意図的な座席配置とグループ編成については、図1のように互いの考えを話し合えるペア（男一男、女一女ペア）を組み、そのペアを前後で組ませ、基本的に4人組のグループ編成にする。その時に組むペア同士もある程度、考えを話し合えるペア同士で組むようにグループの編成を行った。

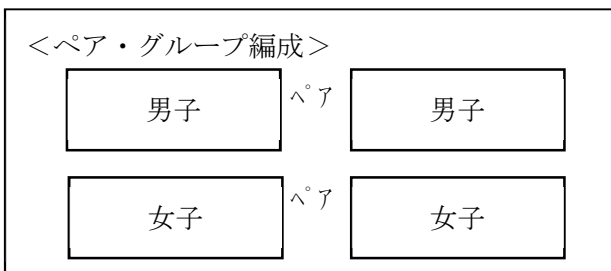


図1 意図的なペア・グループ編成

### (3) 道徳ノートを活用

道徳ノートは、図2のようにノートを見開きで使用させた。左のページには、本時のテーマや発問、考えさせたいことなどについて記述する。右側のページには、自分自身の振り返りはもちろんのこと、級友や保護者、担任がコメントを書けるようなワークシートを貼ることにした。自分の考えや思いが級友や保護者に受け入れられることで、自分自身の考えや行動に自信が持てるのではないかと考えた。また折に触れて道徳ノートを読み返すことで自分自身の成長や変化を感じられるのではないかと考えた。

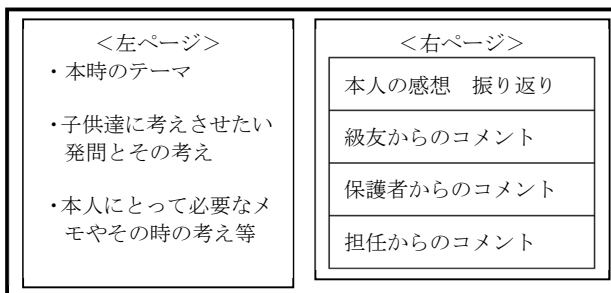


図2 道徳ノート構想図

## 6 I期の成果と課題（○：成果 ▲：課題）

### (1) 学習指導内容の工夫

- 教科書外の教材であり、内容も印象的な「償い」を扱ったことで、生徒は資料の内容に関心を高め、意欲的に考えることができていた。
- 書く内容を指示したことにより、余計な板書を写す必要がなくなり、考える（書く）時間を確保することができた。自分の考えを持つことができ、ペアトークにスムーズに取り組むことができた。

ができた。

- ▲ 資料の印象が強く、登場人物に対する感心やとまどいを感じた生徒が多く、自分事に置き換えたり、深めたりすることが難しい教材だった。

- ▲ 道徳ノートに書く内容を整理したことにより自分で気付いたり、必要だと思ったことを自由に書いたりしていた生徒は少なかった。

### (2) 他者との交流場面の設定と交流方法の工夫

- ペア（グループ）トークを通して、自分の考えを伝えたり、相手の考えを聞いたりすることができていた。
- 通常の座席配置よりも活発な話し合いが行われていた。親しい関係性もあり、良い雰囲気の中で、話し合いに取り組んでいた。
- ▲ 親しい者同士の話し合いは活発に行われたが、考え方が似た者同士のペアも多く、違う価値観が出にくかった。話し合いが深まらないペアには、教師による意図的な問い返しを行ったり、話し合いの仕方を示したりするなどの工夫が必要だと感じた。

### (3) 道徳ノートの活用

- 見開き1ページの中に、本時の内容、自分の考え、級友の考え、他者（級友、保護者、担任）からのコメントをもらうことで、生徒がいつでも振り返ることができていた。
- 相手に認められる安心感から自分も相手を認められるようになり、思考の幅が広がったと感じている生徒もいた。他の意見を認められるようになったことが新しい見方や考え方につながった。
- ▲ 授業の終結にグループ内（4人）で互いの考えに対してコメントを記入し合い、振り返りを行うためには、少なくとも10分程度の時間が必要になる。その時間を確保するためには、発問の精選や指導過程の工夫が必要となる。

## 7 II期の取組

教材名 「背筋をのばして」（東京書籍 新しい道徳3）  
主題名 C-（14） 家族愛 家庭生活の充実

## 8 研修テーマに迫るための手立て

- (1) 学習指導内容の工夫
- (2) 他者との交流場面の設定と交流方法の工夫
- (3) 道徳ノートの活用

## 9 具体的な取組

### (1) 学習指導内容の工夫

I期では、教科書外の教材を用いて実践を行った

が、Ⅱ期では教科書の題材を基に授業づくりを進めた。Ⅰ期で取り組んだ抽象度の低い発問では、生徒の思考を十分に広げることができないという課題が残った。そこで、Ⅱ期では、発問の抽象度を上げ、より多面的・多角的な考えが引き出せる発問の精選を行った。生徒の中には、考えることや書くことを苦手としている生徒もあり、そのような生徒の思考の助けとなるよう、1時間の授業の流れや教材の内容、思考の変化（比較・検討）が見えるような板書の構造化を行った。その際、事前アンケートの提示やあらすじの確認などにICTを活用した。

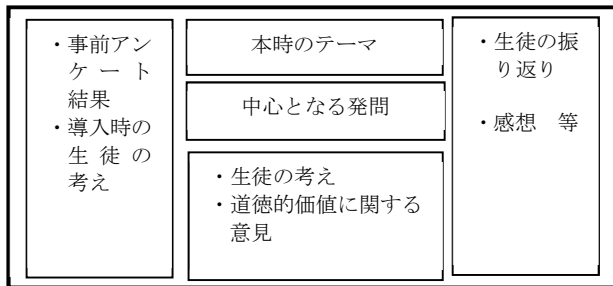


図3 板書構造化

## (2) 他者との交流場面の設定と交流方法の工夫

Ⅰ期同様、1時間の授業の中でペア（グループ）トークの場面を適切に位置づけることを継続して行った。また、Ⅰ期の取組では、話し合いは活発に行われたものの、考え方が似た同士のペア編成も見られ、話し合いの深まりが十分ではないペアがあった。Ⅰ期では、話し合いの土台づくりはできたと考え、Ⅱ期では、考えが違う者同士のペア編成を行ったり、通常の座席で授業を行ったりするなど、意図的な座席配置を少しずつ緩めながら進めた。



図4 意図的な座席配置での授業の様子

## (3) 道徳ノートを活用

道徳ノートの活用に意欲的な様子が見られたことから、Ⅱ期も同様に行うこととした。また、これまでは授業後に道徳ノートを持ち帰り、保護者からコメントをもらっていたが、Ⅱ期では「家族愛・家庭生活の充実」をテーマにした授業を行うに当たり、事前に「わが子に関するアンケート（記述式）」という形で、授業づくりに協力してもらうことにした。自分の保護者が日頃どのような考えを持って、子供

に接しているのかを知ることにより、さらに自分事として深く考えさせたい。

また、板書の中で生徒自身が必要と思ったことや級友の意見で良いと思ったことは、自分の判断でノートに書き込み、思考を深める一助とするよう指導をした。そのようなノートをグループ内で交換し見合うことで、互いの考えの結果はもちろん、その考えに至る過程も知ることができ、多面的・多角的な思考力の向上につながると考えた。

## 10 Ⅱ期の成果と課題（○：成果 ▲：課題）

### (1) 学習指導内容の工夫

- 発問については、抽象度を上げることで考えが単一的にならず、様々な考えが出るようになり、ペア（グループ）トークの深まりにつながった。
- 板書の構造化やICTの活用を取り入れることで、生徒が登場人物の心情の変化や考えを捉えやすくなり、議論する論点を明確にすることができた。また、ICTの活用は、生徒が教材の内容を把握しやすくなったことだけでなく、教師が板書をする時間が省略され、生徒の考える時間の確保にもつながった。
- ▲ 発問の抽象度を上げることで様々な考えが出るようになり話が広がるようになってしまい、ペア（グループ）トークにかかる時間が多くなった。発問の精選や時間配分等に工夫が必要になる。

### (2) 他者との交流場面の設定と交流方法の工夫

- Ⅰ期の取組の成果もあり、Ⅱ期のペア編成においても話し合い活動はスムーズに行われた。
- ▲ より活発な意見交換ができたのはⅠ期のペア編成であった。Ⅰ期に最も話しやすい環境を整えたことによるもので、それ以外の座席では話し合いにくさを感じるようになってしまったと考えられる。

### (3) 道徳ノートの活用

- 「わが子に関するアンケート」を受け取り、改めて家族に対する感謝や自分の在り方について、自分事として振り返ったり、考えたりすることができていた。
- グループ内でのノートの交換は、級友の考えやその過程を知ることができ、自分の考えを再考するのに役立っていた。
- 保護者は大変協力的で、生徒も授業での学びを更に深めることができた。保護者との事前の連携を密にし、負担にならないような配慮が必要である。
- ▲ 資料の内容を確認しているときや相手の考えを聞いているとき等、思考の途中を記録する（メモを取ったり、線を引いたりする）ように

指示をしたが、実際に記録を取る生徒は少なく、一部の生徒に限られていた。年度当初からの指導が大切になることが分かった。

## 11 1年間の総括

### (1) 学習指導内容の工夫

教材の工夫について、Ⅰ期では、教科書外の教材を、Ⅱ期では教科書の教材を用いて授業づくりについて、どちらにも資料としての力強さや多様な考えの引き出しやすさ等、それぞれの良さがあった。

教科書外の教材を用いた際、登場人物に対する感情や感動が大きくなりすぎることもあり、自分事として捉えたり、考えを深め、広げたりしにくくなる一面があった。また、生命に関わるものや生徒の実態等、内容によっては、配慮すべき点が多くあり、時間をかけて検討した上で扱う必要があると感じた。そのため、教材選びについては、生徒の実態や授業のねらいについて有効な内容を選択することが大切だと感じた。また、教科書外の教材を用いる場合は、それ自体が主とした教材としてではなく、授業の導入や終結において補助的な資料として用いることも効果的なのではないかと考えられ、今後工夫していきたい。

指示・発問の工夫については、Ⅰ期では抽象的な発問を減らし、生徒の考えやすさを優先させたものとしたが、Ⅱ期では、より多様な考えを引き出すために抽象度を上げた発問の精選を行った。Ⅰ期よりも多くの考えが出されるようになり、議論も活発に行われるようになった。議論の内容が広がりすぎる場合もあり、生徒の様子を見ながら、教師が話合いの方向性を整えたり、内容を整理したりするような補助発問を入れることで、より活発で深まりのある議論になると考える。ノートに書く内容を整理し、発問を考えるのが苦手な生徒に合わせたものにしたことは、考える時間や書く時間の確保につながり、「自分の考えを持つこと（書くこと）ができる生徒が増えた」という点で、一定の成果は得られた。

また、道徳ノートの活用について、道徳ノートの「自分の考えを自由に書くことができること」が生徒の自由な考えを引き出し、議論を発展させることを期待していたが、指示や発問を限定したことによって、道徳ノートを上手に活用できない様子も見られた。今後は、より自分の考えや思いを自由に書き込むことのできる道徳ノートづくりができるよう工夫したい。

### (2) 他者との交流場面の設定と交流方法の工夫

Ⅰ期からペアトークを継続して行い、少しずつではあるが、生徒が円滑に話合いを進めることができるようになった。また、意図的な座席配置によるペア編成の工夫によって、話合いが活発に行われ、多面的・多角的に考えるのに効果的だったという生徒

もおり、生徒自身がその効果を実感していたことも成果の1つと考えられる。人間関係の希薄さを考慮しての座席配置を行ったことにより、話合い活動への抵抗感を減らし、話合いへの取り組みやすさを促すのに効果があったと考えられる。

しかし、親しい中でのペアトークをきっかけに、最終的には「いつでも、誰とでも、活発な意見交換ができること」を目標としていたが、通常の座席で話し合わせると、意図的な座席配置に比べ、活発さや深まりに欠ける場面があった。意図的な座席配置をしたことによって、通常の座席では、話し合いにくさを感じるようになってしまったと考える。

今後は、話合い活動を充実させる方法として、意図的な座席配置に頼るのではなく、子供達自身が話し合う意味と方法を理解した上で、いつでも、誰とでもペアトークに取り組めるような指導を行っていききたい。

### (3) 道徳ノートの活用

級友や保護者からコメントをもらいながら道徳ノートづくりを進めてきたが、「自分の考えが級友・保護者に認められて嬉しい。自信になる」という生徒も多くいた。他者との交流から得られた自信は、進んで発表する姿勢やグループ内での活発な意見交流につながり、さらには、自分の良さや相手の良さに気付く（認める）力の向上にもつながった。

また、1年間道徳ノートを活用してきたことで、過去の自分の考えを振り返ることができ、今の自分と比較することで、自分自身の成長を感じられるものとなった。道徳ノートは、自分と他者をつなぐだけでなく、自分と自分をつなぐ役割もあり、授業後も多面的・多角的な視点で物事を考えるきっかけになるものと考えられる。

しかし、保護者からのコメントを継続していくために、保護者の負担とならないよう配慮し、上手に連携していきたいと考える。また、Ⅱ期では「わが子に関するアンケート」という形で協力を得ながら授業づくりを行い、生徒たちの考えを深めることができた。アンケート等の協力については、事前に十分な準備が必要になると感じた。日頃から信頼関係をしっかりと築き、保護者に対して感謝の気持ちを持ちながら、今後も継続していきたい。

#### 【参考文献】

- 1) 宮城県教育委員会：「特別の教科 道徳」の全面実施に向けて 平成29年9月
- 2) 加藤彦行：「考え、議論する道徳に変える話し合い & 道徳ノートの鉄則 50」 明治図書出版 2019

#### 【図表等の許諾について】

図4は授業実践の中での話合い活動の様子である。それぞれ顔と氏名が特定できないことを確認し、生徒の保護者から使用許諾を得た。